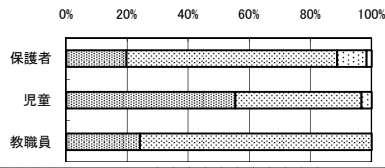


■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

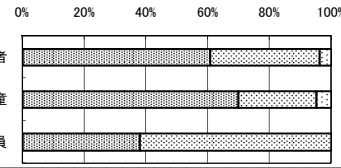
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



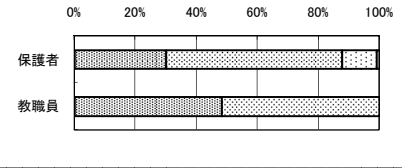
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

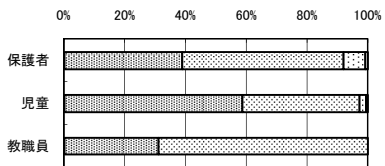


【学校から】 『教育方針・目標の理解』では、学校だよりや学校ホームページ、また学年だよりや学級懇談会、学校朝会等において、保護者や児童に対し丁寧に説明している結果、「どちらかといえば、そう思う」と3者ともに9割以上が分かりやすく説明していると感じている。今後も、いろいろな場面で懇切丁寧な説明を心がけていく。『意欲的な学校生活』でも、3者ともに「どちらかといえば、そう思う」を加えると9割以上が学校生活を楽しいと感じている。また、子どもも「どちらかといえば、そう思わない」が5割以上、その原因を突き止め、解決に向け取り組んでいく必要がある。

教科指導

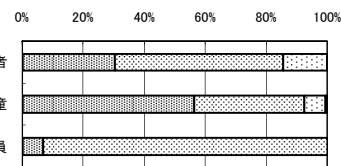
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

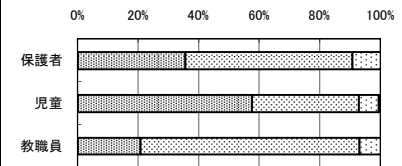


【学校から】 『授業づくりの工夫』『意欲的な学習態度』ともに、昨年度と比べ、児童の評価が上がっている。教師が、「分かる授業」になるよう努めた結果と感じている。ただ、『意欲的な学習態度』において、「そう思う」と答えた割合が、児童の評価が6割弱に対し、教師は1割も満たないものとなっている。教師の目指す理想の姿にはまだ不十分ということが言える。今後も、児童が意欲的に学習に取り組めるよう楽しく分かる授業作りに取り組んでいく。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

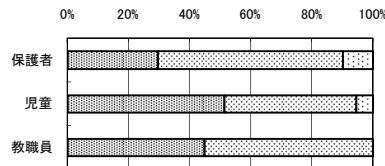


【学校から】 児童の総合的な学習の時間に取り組む意欲は昨年度よりも20ポイント近く伸びている。今後は、いろいろな場を利用して、保護者の理解をさらに高めるよう努めていく。

道徳教育 心の教育

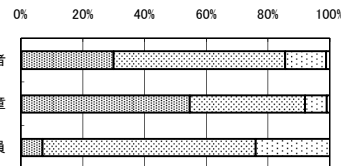
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にす心の教育の充実に向けて努めていると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

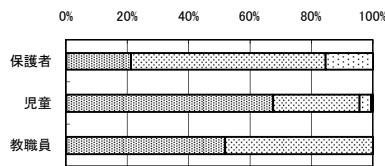


【学校から】 『道徳、心の教育の充実』については、昨年度からの授業改善や児童の体験活動への取り組みから、児童の実践的意欲が高まり、児童の「そう思う」の割合が5割を超えたとされる。また、保護者に対し、学校・学年通信などで学校の取り組みや児童の体験活動を伝えたことで、保護者の「そう思わない」が昨年度に比べ減少したと考えられる。ただ、「あいさつができていないか」という設問については、「そう思う」と答えた児童が5割を超えたのに対し、教師は1割未満と双方に開きがある。心のこもったあいさつを自分から進んでできるよう引き続き指導が必要である。

人権教育

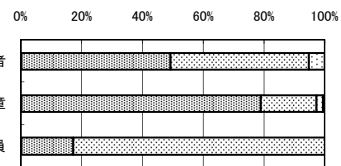
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にす指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

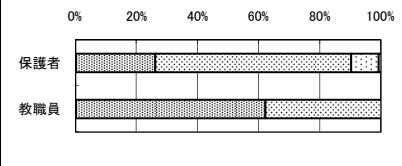


【学校から】 教職員や保護者が思っている以上に子どもたちは、「どちらかといえば、そう思う」も含めると9割以上が大切にされていると感じている。また、「友だちと仲良くしていますか」という設問でも、教職員や保護者が思っている以上に、ほとんどの児童が仲良くしていると感じている。今後は、人権教育の充実に向け、さらに取り組んでいきたい。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

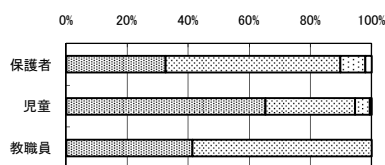


【学校から】 今年度は、年度当初に「城北だより」で学校の特別支援教育について紹介し、教育相談や支援体制作りを充実させた。その結果、保護者からは、昨年度同様の支持を得ることができた。今後は、支援を必要とする子どもの教育について共通理解を図りながら、職員全体で支援にあたっていきたい。

生徒指導 教育相談

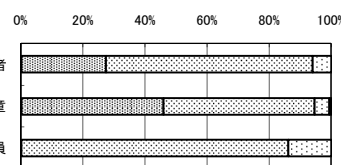
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



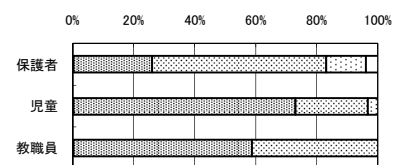
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



【学校から】 『生徒理解』では、教職員と比べると「そう思う」が児童は多く、保護者は少なかった。今後は、家庭との連携を密にすることで、保護者の理解を得られる関係づくりに努めていきたい。また、『規範意識』では、児童は個人の評価なので「そう思う」が多くなるが、教職員は全体的な視野で考えるので評価が下がる。この結果を踏まえ、道徳の授業をはじめとして、規範意識を高めるような指導にさらに力を入れていきたい。『いじめや問題への対応』については、児童の評価は高いので、昨年同様、全職員での組織的な取り組みを確認し、児童の日常生活をしっかりと見つめ、いじめのない学校づくりに努めていきたい。

健康教育 安全		学校行事	
15 安全と事故防止 学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。 	16 体力向上 子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。 	17 学校行事への参加と工夫 学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。 	
【学校から】 『安全と事故防止』では、「そう思う」が、保護者と教職員の感じ方で30ポイント近くの開きがある。保護者が学校の安全と事故防止について、どういう点で不安に思っておられるのか探り、安心してもらえるような対応をとる必要がある。『体力向上』では、児童の「そう思う」が昨年度に比べ約10ポイント高くなっている。体育コーナーの設置や、体育委員会による遊びタイムの取り組み等の成果が表れたものと考えられる。今後、体育の授業でいかに児童の運動量を確保するか、さらに研修を積み実践していく必要がある。		【学校から】 約1割の児童が、運動会や学習発表会などの学校行事に進んで取り組めていないという実態から、意欲的に取り組んでいけるような教育実践を行ってきたい。	
学校環境			
18 環境の整理・美化 学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。 	19 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。 	【学校から】 『環境の整備・美化』において、ボランティア活動や一人一鉢活動の取組を充実させた結果、児童は昨年度に比べ「そう思う」が20ポイントも高くなった。一方、教職員は、昨年度に比べ「そう思う」が10ポイント以上低くなっているが、環境緑化等に取り組む時間が少なく、十分に活動できていないという思いがあるからと考えられる。今後は、学年に応じた環境緑化活動ができるよう改善していきたい。また、『施設・設備の安全管理』については、保護者と教職員の意識は昨年度と変わらないが、児童の意識は「そう思う」という割合が20ポイント近くも増えており、「そう思わない」は0になった。このことから、児童が校内で安心して過ごしていることがうかがわれる。さらに安全管理に対して、細心の配慮を持って取り組んでいきたい。	

情報の公開・発信		家庭・地域との連携	
20 学校の予定等がわかる情報発信 学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。 	21 教育活動への参加 学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。 	22 家庭や地域との連携協力 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。 	
【学校から】 『学校の予定等がわかる情報発信』に関して、「どちらかと言えばそう思う」を含めると9割以上が「十分に発信されている」と感じており、今後も学校だより、学級だより、諸文書等で学校の情報を積極的に発信していく。『教育活動への参加』においても、「どちらかと言えばそう思う」を含めると9割以上が「参加しやすい」と感じており、さらに保護者が参加しやすい教育活動にするため、より一層努力していく。		【学校から】 保護者の評価において、「どちらかと言えばそう思わない」の割合が昨年度と比べると、10ポイント程増加した。PTAや地域諸団体との話し合う機会をできるだけ多く設け、協力体制を強化していく必要がある。	

(学校独自)	(学校独自)	(学校独自)
23 0 	24 0 	25 0
【学校から】	【学校から】	【学校から】

来年度の具体的な取り組みについて
【全体】 「どちらかと言えばそう思う」も含めた肯定的な意見が、ほとんどの項目で9割以上を占め、ある程度の評価を得ているが、「そう思う」だけみると4割を超えない項目が多く、十分に満足できる評価とは言えない。来年度は、今回明らかになった課題を克服するため、より一層の協力・推進体制を構築し取り組んでいく必要がある。
【個別】 ・『4 授業づくりの工夫』及び『5 意欲的な学習態度』において、教職員の「そう思う」の割合を伸ばすためには、教師自身が取り組んだことに対し、自信を持つことが大切である。そのため、年一人1回の研究授業の実施はもとより授業力アップのための研修を充実し、確かな成果を実感できるようにしていく。 ・『あいさつの励行』において、教職員の「そう思う」が極端に低いのは、心のこもったあいさつを自分から進んでできるようにさせたいという願いがあるからと考えられる。来年度は、より一層生徒指導部やPTA、地域の方々等と連携し、あいさつ運動を増やしたり、道徳の授業や学級指導等であいさつの大切さを感じ取らせるなどの取り組みを強化していく必要がある。 ・『14 いじめや問題への対応』において、児童は「そう思う」が7割を超えているのに対し、保護者は3割に達していない。来年度は、より一層いじめや不登校等に対応する組織を確かなものにし、学校総体として取り組むことで、保護者の学校に対する信頼を高めていく必要がある。

学校関係者評価
・今年度は、児童が地域の中において、地域の方々に対するあいさつが非常によくなった。これまでは、自分からあいさつする子どもは少なかったが、今年度は、自分から進んであいさつしてくる子どもがとて増えた。これは、学校における道徳教育の推進の成果と感じている。 ・保護者の回答で、「どちらかと言えば、そう思わない」がほとんどの項目で1～2割あった。少数ではあるが、ここを限りなく0に近づける努力をして欲しい。 ・教職員の回答で、「そう思う」の割合がかなり低い項目が目立つ。特に『授業づくりの工夫』において、児童は「そう思う」が6割あるのに対し、教職員はその半分しかない。また、『友達への思いやり』においては、児童は「そう思う」が8割あるのに対し、教職員は2割も満たない。教職員は、自分の指導にもっと自信を持って欲しい。 ・保護者から見て、判断しにくい設問が多い。あいまいな回答を避けるためにも、「分からない」という選択肢を設けて欲しい。